

令和元年度の取り組みについて

1 介護施設等における生産性向上に資するパイロット事業

平成 28 年度から進めてきた先進的介護の実現に向けた取組の成果と課題を踏まえ、「介護職員の専門性や働き甲斐の向上」、「介護ロボットや ICT 等の活用」、「効率的な人員体制」を包含する介護現場の働き方改革を進めることにより、人とテクノロジーの融合による新たな働き方モデルとなる「北九州モデル」の構築を目指した実証を行う。

なお、本市は、本年度の厚生労働省の「介護施設等における生産性向上に資するパイロット事業」（以下「パイロット事業」と言う。）の実施自治体に選定されており、パイロット事業としてこの実証を行っていく。

(1) パイロット事業の概要

平成 30 年 12 月に厚生労働省に設置された、介護施設の関係団体で構成される「介護現場革新会議」における議論の取りまとめを踏まえつつ、北九州市を含む全国 7 か所の自治体（5 県、2 政令市）において、各地域内の介護施設等における生産性向上に資する好事例の創出や業界イメージ改善の取組等を行う。

(2) 本市の実施予定内容

①北九州モデルの具体化

(ア) 介護ロボット・ICT を効果的に活用した先進的介護（目標像）の具体化

実証で確認できた介護ロボット・ICT の効果を積極的に活用し、日中及び夜間の介護を改革するための仮説を基にした実証・分析を行い、理想的な介護現場（人員配置・業務シフト）を具体化し、先進的介護の目標像を構築する。

◆導入予定機器

分野等	製品名	メーカー
見守り支援	Neos-Care	ノーリツプレジジョン(株)
	電波センサー	(株)ミオ・コーポレーション
記録支援	ケアカルテ	(株)富士データシステム
機器連携	データ収集プラットフォーム	パナソニック(株)
移乗支援	SASUKE	マッスル(株)

◆実証施設(1 施設)

施設名	所在地	種別	利用者定員
(社福)春秋会 特別養護老人ホーム 好日苑大里の郷	門司区	地域密着型 ユニット型	特養:29 人 ショート:10 人 合計 39 人

◆主な評価項目

	調査テーマ	調査方法	評価したい内容
変化を見る	タイムトライアル	作業観察	・介護以外の業務時間の減少 ・コミュニケーション等の時間増
	職員の残業・有給消化	勤務記録表	・残業時間減少、有給取得促進
	職員の実感	アンケート調査	・職員が良い効果を実感
		インタビュー調査	・モデル改善点も抽出
	運営コスト	バランスシート	・経営面のインパクトを把握
保持を見る	入居者の QOL	アンケート調査	・入居者の満足度が保持
	ケアの質	アンケート調査	・ケアの質が保持
	安全性	アクシデント記録比較	・ケアの安全性が保持

(イ) 介護施設が行う介護ロボット等を活用した働き方等の好事例の提示

本市の実証施設（特養）が、これまでの介護ロボット・ICT の導入実証を通じて実施してきた働き方改革を、業務上の課題の発見から導入機器の決定、その効果等についてまとめ、北九州モデルの横展開に向けた好事例を作成する。

◆協力施設

施設名	所在地	種別	定員
(社福)孝徳会 特別養護老人ホーム サポートセンター門司	門司区	ユニット型	120 人
(社福)広寿会 特別養護老人ホーム 足原のぞみ苑	小倉北区	多床室	80 人
(社福)援助会 特別養護老人ホーム 聖ヨゼフの園	八幡西区	多床室	50 人
(社福)無何有の郷 特別養護老人ホーム 杜の家	八幡西区	ユニット型	100 人

②介護記録、見守りセンサー等のプラットフォーム化の実現

介護記録、見守りセンサー等を共通のプラットフォーム上で連携させることで、センサー情報や介護記録情報を自動集約する実証を行い、機器アプリの集約化やデータ分析による入居者の QOL 向上にむけた支援等を目指すためのデータ分析・アウトプットができる環境づくりを進める。

※上記①の実証の中で、一体的に実施する。

◆主な期待される効果

- ・夜間業務の適正化
- ・バイタルなど異常の早期発見
- ・投薬効果分析（睡眠、排泄など）
- ・関係者への情報共有（ダッシュボード）

③先進的介護ワークショップの開催

地域団体や学生など幅広い世代に北九州市の目指す介護モデルを提案し、新たな介護の担い手を創出するためのワークショップを開催し、幅広い世代・多様な人材が介護の魅力を感じてもらえる方策を発信する。

◆テーマ

- ・上位目標：「テクノロジーの導入による介護業務の魅力の増幅」
- ・ワークショップの目標：「介護職を人気職種に！」

◆ワークショップの形式

- ・ワールドカフェ方式

◆開催概要

第1回	第2回	第3回
令和元年 11 月	同 12 月	令和 2 年 1 月
・オリエンテーション ・テーマ関連レクチャー ・グループワーク	・グループワーク ・まとめ ・発表準備	・プロジェクト概要説明 ・班ごとの発表 ・講評 ・表彰(グッドプラクティス)
・6 人/班 × 3 班	・同左	・100 名
公募によるメンバーで 2 回継続、班も同じ		一般市民向け公開型

④介護ロボットマスター育成講習の開催

介護現場において、介護ロボット等の活用を推進する役割を担う専門人材(介護ロボットマスター)の育成を目的とした講習会を開催する。

これまでの講習をベースとしつつ、民間のノウハウを効果的に取り入れながら充実・強化を図る。

◆具体的な強化策

- ・講習の周知

講習を開催する前段として、介護ロボットの導入メリット等を伝えるセミナーを開催し、介護ロボット等の導入に対して、前向きな思いを抱く管理者を増やし、所属する職員に講習受講を勧めてもらうなど、受講者の確保対策を講じる。

- ・カリキュラム・テキストの見直し

カリキュラム・テキストの内容を見直し、講習体系の確立と講習の品質向上を目指す。

◆介護ロボット導入セミナーの開催

介護ロボット導入の促進と基礎的な知識の習得を目的に、市内のすべての介護施設職員を対象とした「介護ロボット導入セミナー」を開催する。

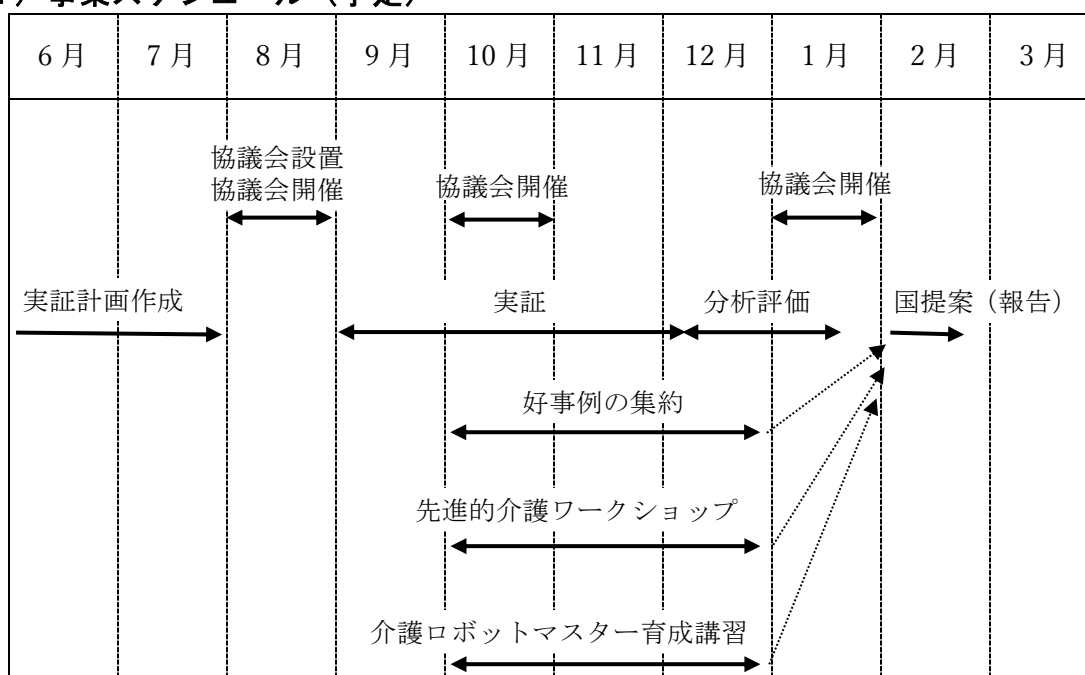
◆介護ロボットマスター育成講習の概要

クラス	求められるレベル	講習名・対象者	開催回数・時間等
初級	介護ロボット等の活用の必要性を理解して業務の中で実際に使用できる人材	介護ロボットオペレーター育成講習 ※一般の職員を想定	・回数：1回 ・時間：3時間 ・受講者数：約100人
中級	導入した介護ロボット等について、自分の職場に適した活用マニュアルを作成できる人材	介護ロボットリーダー育成講習 ※主任・リーダー級職員を想定	・回数：1回 ・時間：6時間 ・受講者数：50人
上級	介護ロボット等の導入・活用を促進し、職場全体の作業効率を高められる人材	介護ロボットマネジャー育成講習 ※管理者級職員を想定	・回数：1回 ・時間：3時間 ・受講者数：25人

(3) 実施体制（先進的介護の北九州モデル推進協議会について）

パイロット事業の実施にあたっては、介護現場における生産性向上を共通の課題とする医療・福祉の関係団体及び関係機関等で構成する協議会を設置する必要があり、本市においては、公益社団法人北九州市医師会、公益社団法人北九州高齢者福祉事業協会などの医療・介護の関係団体、産業医科大学、北九州市等で構成する「先進的介護の北九州モデル推進協議会」を設置。

(4) 事業スケジュール（予定）



2 介護ロボット開発コンソーシアムの取り組み

平成 28 年度より介護現場のニーズを把握、反映させた介護ロボットの改良・開発を支援する取組みを進めている。会員数は全体で 48、設立当初 22 の倍近くとなっている。

(1) 開発支援活動

① 開発助成

介護作業現場のニーズに即し、また、介護従事者の身体的・精神的・時間的負担の軽減に寄与し得る実用的な介護ロボット等の開発・改良に対して補助する、介護ロボット等開発事業の公募を行った。この開発助成の特徴は、開発完了後に北九州市内の施設での導入実証を義務付けていることで、介護現場の声を具体的に聞くことで、より良い製品へと改善してもらうためである。

既に公募期間は終了しており、8 件の応募があった。今後は外部有識者により構成される「介護ロボット等開発事業審査委員会」にて審査をし 2 件の助成が決定した。

【開発助成】

対象分野	介護・福祉：経済産業省と厚生労働省が定める重点 6 分野に該当するもの
公募期間	令和元年 6 月 14 日～7 月 12 日
補助額	中小企業者及び大学は補助対象経費の 2/3、それ以外は 1/2、年度当たり 500 万円を上限
補助期間	平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 2 月 29 日

② 実証支援

会員からの依頼により機器の導入実証 2 件および開発品に対するヒアリング調査 1 件を支援した。機器の導入実証については、実証内容の説明および実証できる環境の確認を行った。ヒアリング調査については、開発途中の現品を見せながら意見交換を行った。

【実証支援】

No.	テーマ
1	会員試作品の実証
2	会員製品の機能強化版の実証
3	会員試作品のヒアリング調査

③ 倫理審査支援

実証を行うには、外部有識者により構成される「先端技術実証倫理審査委員会」による審査が必須である。実証において、被験者や関係者に危険がないこと、不要な負担が強いられないこと、尊厳が損なわれないことなどを確認、審査していただく。

令和元年度 8 月には次の 3 件に対する審査を予定している。これ以降も複数件の審査が見込まれている。

【倫理審査】

No.	テーマ
1	北九州市が行う実証(北九州モデル)
2	平成30年度開発助成対象機器による実証
3	会員の申し出による実証

(2) 広報活動

① 会誌“つなぐ～会員企業の紹介～” 発刊 0号～2号 発行

平成30年度に、実証に協力いただいている特別養護老人ホームを運営されている5つの社会福祉法人の協力を得て、14施設、28介護サービスでの介護ロボットの導入・実証が可能となった。そこで、各施設に実証に参加している“実感”を持っていただくため、定期的に会誌を発行して、コンソーシアムの会員・製品をテーマ別に紹介することにした。会誌の名前は会員と施設をつなぐ意味を含めて名付け、季刊として第2号まで発行している。

【会誌】

No.	テーマ
第0号	会員一覧および简单介绍
第1号(春号)	配膳・搬送支援、生活支援
第2号(夏号)	排泄支援
第3号(秋号)	リハビリ支援(予定)

② CareTEX 福岡 2019 へ出展

CareTEX 福岡 2019 は介護用品と介護施設向け設備・サービスに特化した、九州最大級の商談展示会である。北九州市とコンソーシアムの活動の紹介と併せて、平成30年度の開発助成テーマである介護記録の自動化システムを展示した。福岡県だけでなく、佐賀、熊本、宮崎、山口、広島など各県の13施設より事前訪問予約が有り、コンソーシアム入会への問い合わせにも対応した。介護ロボットへの関心の高まりを感じさせる展示会であった。

【CareTEX 福岡 2019】

会期	令和元年7月3日～4日
会場	マリンメッセ福岡
入場者	4,433人(速報値)

③ 国際福祉機器展 H.C.R. 2019 出展(予定)

国際福祉機器展は、ハンドメイドの自助具から最先端技術を活用した介護ロボット・福祉車両まで世界の福祉機器を一堂に集めたアジア最大規模の国際展示会である。平成28年度から4年連続で出展する。

北九州市とコンソーシアムの活動の紹介に加えて、平成30年度開発助成テーマである体位変換を支援する「ベッド上アシストツール」なども併せて展示する予定である。情報発信のみならず、行政や介護関連の推進団体など地域を超えて連携、情報交換ができる貴重な場としても活用している。

【国際福祉機器展 H.C.R. 2019】

会期	令和元年 9 月 25 日～27 日
会場	東京ビッグサイト
小間番号	W2-042(西館)
入場者	119,452 人(前年度実績)

(3) 事業報告会の開催

会員に対して北九州市やコンソーシアムの活動を報告する会を開催している。会員が一堂に会する良い機会なので、活動報告に加えて会員間での意見交換の場や会員と施設との意見交換の場を設定して、活動の活性化を図っている。

今年度は国際福祉機器展 H.C.R. 2019 終了後の、10 月～11 月頃開催を目安として準備を進めている。